

ID	登録日	番号	製作者	成分名	生物由来 の有無	原料地名	原産国	含有 成分	有害 成分	有害 成分	有害 成分	有害 成分	出典	概要
209	2009/10/16	90617	阪大微生物 病研究会	沈降精製百日せきジフテ リア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合 ワクチン 百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混 合トキソイド ジフテリア破傷風混合ト キソイド 成人用沈降ジフテリアト キソイド ジフテリアトキソイド	ペプトン	ウシの乳	ニュージー ランド	製造 工程	無	無	無			
210	2009/10/16	90618	阪大微生物 病研究会	乾燥日本脳炎ワク チン 日本脳炎ワクチン	マウスの 脳	マウス	日本	製造 工程	無	無	無			
211	2009/10/16	90619	阪大微生物 病研究会	沈降精製百日せきジフテ リア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合 ワクチン 百日せきジフテリア破傷 風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混 合トキソイド ジフテリア破傷風混合ト キソイド 成人用沈降ジフテリアト キソイド ジフテリアトキソイド	牛肉消化 液	ウシの筋肉	オーストラリ ア	製造 工程	無	無	無			
212	2009/10/16	90620	阪大微生物 病研究会	乾燥弱毒生麻しん おたふくかぜ風し ん混合ワクチン	人血清アル ブミン	ヒトの血液	該当なし(製 造中止品 目)	添加 物	有	無	無	新型インフル エンザ (H1N1)	WHO 2009 August 28	WHOは2回目のパンデミックの到来に備えるよう、北半球の各 国に注意喚起している。H1N1パンデミックウイルスは世界のほ とんどの地域で最も主要なインフルエンザ種であり、パンデミッ クは今後も感染集団を介して続くであろう。ウイルスが強毒化す る変異の兆候はなく、臨床症状はすべての国で概ね一致しており、 ほとんどが軽度であるが、2回目のパンデミックでは更に多くの ヒトが罹患する可能性がある。パンデミックでは比較的若年 者が感染し、重症および死亡症例の大半が50歳以下の成人で あるが、季節性インフルエンザでは約90%が65歳以上である。 また、若者や健康者にも重度の呼吸器疾患を起こす事があり、 ICUでの治療が必要となる。妊娠中や呼吸器疾患、重いぜん 息、心臓血管障害、糖尿病および免疫不全などの疾患は重症 化および死亡のリスクを高くしており、また、少数民族や先住民 族は入院や死亡のリスクが4-5倍高いとの報告もある。

ID	申請日	番号	開発者名	商品名	生物由来成分	原材料	製造国	製造工程	添加物	遺伝子組み換え	修正使用種畜	感染症(PT)	出典	概要
213	2009/10/16	90621	阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	脱繊維牛血液	ウシの血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程		無	無	無		
214	2009/10/16	90622	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくせきワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくせき風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	乳糖水和物	ウシの乳	オランダ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド	添加物		無	無	無		
215	2009/10/16	90623	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	MRC-5	ヒト胎児肺二倍体細胞	1966年に樹立したマスタセルバンクに使用したヒトの細胞株	製造工程		無	無	無		
216	2009/10/16	90624	阪大微生物病研究会	乾燥痘そうワクチン 痘そうワクチン	ウシの皮膚	ウシの皮膚	該当なし(製造中止品目)	製造工程		無	無	無		
217	2009/10/16	90625	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え) トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ペブジン	ブタ胃液	米国	製造工程		無	無	無		
218	2009/10/16	90626	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え) トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ブタラードウォーター	ブタ脂肪	米国、カナダ	製造工程		無	無	無		
219	2009/10/16	90627	中外製薬	トシリズマブ(遺伝子組み換え)注	ガラクトース	ウシ乳	米国、ニュージーランド	製造工程		無	無	無		
220	2009/10/16	90628	中外製薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え) ストレプトコックスピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	パンクレアチン	ブタ膵臓	米国、カナダ、日本、フランス	製造工程		無	無	無		

ID	登録日	番号	製薬会社名	一般名	生物由来成分名	原料名	原産国	含有区分	成分	副作用	適正使用措置	感染症(PIT)	出典	概要
221	2009/10/16	90629	中外製薬	トラスツスマブ(遺伝子組換え)	プリマトン HS/UF	ウシ脾臓、心臓、ウマ脾臓、豚肉、ブタラード、ウオーター	ウシ: 米国、ウマ: 米国、カナダ、ブタ: 米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
222	2009/10/16	90630	中外製薬	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチン ベータ(遺伝子組換え)	ブタインスリン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
223	2009/10/16	90631	中外製薬	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチン ベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ血清	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
224	2009/10/16	90632	中外製薬	トラスツスマブ(遺伝子組換え) レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチン ベータ(遺伝子組換え) トシリズマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	マスタセルバンクは1990年以前に樹立されており、原産国不明	製造工程	無	無	無			
225	2009/10/16	90633	中外製薬	レノグラステム(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血漿	マスタセルバンクは1990年以前に樹立されており、原産国不明	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	CDC/MMWR 2009; 58; (Dispatch) 1-3 (2009 April 21)	90498に同じ
												ウイルス感染	PLoS Pathogenes 2009 May	2008年に南アで発生した致死性出血熱のアウトブレイクにおいて、30年ぶりに新規の旧世界アレナウイルスが分離された。発見された地名(Lusaka, Johannesburg)より、Lujo virusと命名された。
												新型インフルエンザ(H1N1)	FDA/CBER 2009 April 30	90523に同じ
226	2009/10/16	90634	中外製薬	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチン ベータ(遺伝子組換え)	DMEM/F12	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
227	2009/10/19	90635	持田製薬	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	ブタ腸粘膜	-	有効成分	有	無	無	インフルエンザ	CFIA News Release 2009 May 2	90507に同じ

No.	発症日	患者番号	製薬会社	薬剤名	検体	検査項目	検査結果	検査方法	検査機関	検査結果	出典	概要	
228	2009/10/19	90636	持田製薬	インターフェロンベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・製造工程	有	無	無	細菌感染 日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498)と同じ
											新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省(平成21年4月28日健感発0428003号)	90505)と同じ
											新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 May 14	90505)と同じ
											リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 P214 O-152	90505)と同じ
											ウイルス感染	日本感染症学会第83回総会 P224 O-171	90505)と同じ
											レンサ球菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-173	90479)と同じ
											細菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-174	90505)と同じ
											真菌感染	日本感染症学会第83回総会 P239 O-201	90505)と同じ
											ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360: 2099-2107	90505)と同じ
											HIV	Nature Medicine 2009; 15: 871-872	2001年以降、フランスのレファレンス研究所はHIVの遺伝子多様性を調査しており、2004年に血清検査でHIV陽性であった62歳の女性の血清試料(RBF168)を分析した。この血清は女性がカメルーンからパリに移住した直後に採取された。女性は現在AIDSの症状はない。RBF168からウイルスを分離し、ウイルス遺伝子を解析した結果、RBF168はゴリラのサル免疫不全ウイルス(SIVgor)と最も近縁であった。この新しいウイルスは新しいHIV-1のプロトタイプであると思われるが、HIV-1のグループM,N,Oとは異なり、グループPと命名された。RBF168株が発見される前は、HIVグループOが最もSIVgorに近縁であったが、変異の大きさから現在のSIVgorから直接出現したのではなく、SIVgorのゴリラからヒトへの伝播が起因していると考えられた。これらの結果より、HIVの感染源としてチンパンジーに加えてゴリラが示された。

ID	受理日	番号	製薬会社名	一般名	生物由来成分	原料名	原産国	有効成分	有	無	無	修正 使用 特異	感染症(P1)	出典	概要
229	2009/10/19	90637	持田製薬	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無		細菌感染	日本細菌学会第82回総会 (2009 March 12,13,14) P2-182	90498に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	厚生労働省(平成21年4月28日健感発0428003号)	90505に同じ
													新型インフルエンザ (H1N1)	WHO/EPR 2009 May 14	90505に同じ
													リケッチア症	第83回日本感染症学会総会 P214 O-152	90505に同じ
													ウイルス感染	日本感染症学会第83回総会 P224 O-171	90505に同じ
													レンサ球菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-173	90479に同じ
													細菌感染	日本感染症学会第83回総会 P225 O-174	90505に同じ
													真菌感染	日本感染症学会第83回総会 P239 O-201	90505に同じ
													ウイルス感染	N Engl J Med 2009; 360: 2099-2107	90505に同じ
													HIV	Nature Medicine 2009; 15: 871-872	90636に同じ
230	2009/10/19	90638	持田製薬	インターフェロンベータ	カルボキシペプチダーゼ	ブタ膵臓	米国	製造工程	有	無	無		インフルエンザ	CFIA News Release 2009 May 2	90507に同じ
231	2009/10/19	90639	持田製薬	インターフェロンベータ	トリプシン	ブタ膵臓	該当なし(出荷なし)	製造工程	有	無	無		インフルエンザ	CFIA News Release 2009 May 2	90507に同じ

ID	登録日	登録番号	国	病原体	宿主	感染経路	発生国	有効成分	有	無	無	出典	概要
232	2009/10/20	90640	ILS	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国					インフルエンザ ProMED-mail 20090626.2322	2009年6月25日、アルゼンチン ブエノスアイレスにおいてA/H1N1インフルエンザのアウトブレイクが報告された。発生日は2009年6月15日であり、最初の確定日は6月24日、報告日およびOIEへの報告日は6月25日であった。飼育頭数ブタ5586頭、発生頭数はブタ1676頭、死亡例0頭であった。
												インフルエンザ ProMED-mail 20090701.2376	アルゼンチン政府はブエノスアイレス地方の養豚場で起こったインフルエンザA/H1N1のアウトブレイクを報告した。感染源は、2009年6月7-9日にインフルエンザ様症状を示した農場労働者であり、ヒトから動物に伝播した。感染したブタは2009年6月24日まで症状を呈したが、現在は回復している。総計5500頭を超えるブタにおいて30%が罹患し、死亡例はなかった。この報告は、「新興感染」として国内のブタにインフルエンザA/H1N1を検出し、OIEに報告したまだ2例目であり、1例目は2009年4月にカナダでブタに関連した報告であった。EUの調査グループが行った、ヒトからの新型変異インフルエンザA(H1N1)ウイルスに感染したブタに関する予備的検査では、naive pigsに経鼻的にウイルスを接種すると、感染の1-10日後(ピークは3-5日後)まで(口と目から)ウイルスが排泄された。経直腸的ウイルス排泄やウイルス血症は認められなかった。感染していないブタを感染ブタの中に入れると、接触によりウイルスに感染した。感染したブタはすべて、軽症ないし中程度の臨床症状と病理学的所見を示した。
												インフルエンザ OIE 2009 July 9	アルゼンチンにおけるA/H1N1インフルエンザ:発生日 2009年6月15日、最初の確定日 2009年6月24日、報告日 2009年7月8日、原因 新型A/H1N12009インフルエンザウイルス。2009年6月29日にBUENOS AIRES Canuelas CanuelasでA/H1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。疑い例はブタ6104頭、確定例はブタ1632頭、死亡例0頭であった。疑い例は全て処分された。
												インフルエンザ 4. ProMED-mail 20090718.2557	2009年7月17日、アルゼンチン政府は少なくとも1つのブタ群で新型H1N1インフルエンザウイルスを検出したことに続き、全国的な動物衛生上の非常事態を宣言した。危機管理計画は早期検出を確実にするため、養豚場や処分施設での検査を増やす事を許可している。今月初め、州が運営するSENASAは、ブエノスアイレス州の養豚場で労働者が動物にこの新種を持ち込んだ疑いがあると報告し、ブタがヒトから感染可能であるという理論の重要性が高まった。また、その後検査された別の養豚場もウイルス陽性であったと報告した。

ID	受理日	発行	報告者名	題名	発信機関	資料種別	原産国	言語	形式	修正 有用 程度	感染症(PT)	出典	概要
											インフルエンザ	PHAC News Release 2009 July 7	<p>2009年7月7日、カナダ政府はSaskatchewan州で新型インフルエンザ種を検出したと報告した。同州にある養豚場の2人の労働者から検出され、3例目は調査中である。PHAC(Public Health Agency of Canada)の国立微生物研究所は、この新しい種がヒト季節性インフルエンザおよびブタインフルエンザ由来遺伝子から構成されていることを確認したが、現在流行しているパンデミックH1N1インフルエンザの新型とは異なる。Health Ministerは、予備的な結果からは公衆衛生へのリスクは低く、通常の季節性インフルエンザワクチンを接種した国民はこの新しいインフルエンザ種にいくらか免疫があると述べた。また、カナダ当局は、WHOにこの新しいインフルエンザウイルスの検出について通知し、カナダ政府は引き続き警戒し、国民に進捗について情報提供を続ける、と報告した。</p>
											新型インフルエンザ(H1N1)	WHO/EPR update6 2009年4月30日	<p>2009年4月30日現在、11の国がインフルエンザA(H1N1)に感染した257の症例を公式に報告した。</p>
											新型インフルエンザ(H1N1)	ProMED-mail 20090723.2603	<p>カナダCFIAの検査員2名が、2009年4月下旬にAlbertaのブタにおけるインフルエンザアウトブレイクについて調査中にブタインフルエンザA/H1N1に感染したことが発覚した。カナダにおける最初の新型インフルエンザ感染例である。</p>
											インフルエンザ	ProMED-mail 20090828.3027	<p>カナダ・マニトバ州内のブタ群で新型パンデミックH1N1インフルエンザウイルスが検出された。最初に雌ブタ群で、次いで離乳ブタおよび肥育ブタの家畜小屋で新型H1N1の確定診断がなされた。ウイルスは、感染したメスブタから生まれた子ブタに感染し、子ブタ群および肥育ブタ群に広がった。このウイルスの感染を検出した群における症状はとても軽く、死亡例はなかった。最近の方針声明では、新型H1N1と診断された農場に検疫およびブタ処理を要求することはない。この新型ウイルスは、ブタ群で一般的に検出される他のインフルエンザと異なる挙動は示しておらず、動物がヒトへのウイルス感染に顕著な役割を果たしている証拠はない。</p>

										報告 機関 名称	出典	概要
										新型インフル エンザ (H1N1)	CCDR Weekly 2009; 2: 35 FluWatch (Week34)	カナダPHAC(Public Health Agency of Canada)によるパンデミック(H1N1)ウイルスの監視と疫学調査の週間報告である。2009年8月23-29日の週は、全体のインフルエンザ活動の傾向は先週と比べてわずかに減少し、ILI診察の割合は一年のこの時期に予想される範囲内である。パンデミック(H1N1)2009のピークはweek 22から24の間(2009年5月31日から6月20日)であった。罹患数においては、パンデミック(H1N1)2009の勢いは低く、入院数13例および死亡1例である。2009年8月29日現在、入院総数は1,454例、283例はICUに入院し、パンデミックが起こって以来死亡総数は72例となった。また、パンデミック(H1N1)2009は全州および準州に広がったが、これまで入院症例の約90%および死亡症例の85%以上は4州(AB, MB, ON, QC)から報告されている。2歳以下の子供、妊娠女性、疾患のある65歳以下の人および先住民は、入院する割合が高くまた重症化するリスクが大きい。
	90640									新型インフル エンザ (H1N1)	CCDR Weekly 2009; 2: 30 FluWatch (Week29)	カナダPHAC(Public Health Agency of Canada)によるパンデミック(H1N1)ウイルスの監視と疫学調査の週間報告である。2009年7月19-25日の週は、全体のインフルエンザ活動はこの週ではわずかに減少し、ILI診察の割合および長期入院施設におけるアウトブレイク数は先週に比べて低かった。また、インフルエンザ検査で陽性を示した割合は6週連続で減少した。2009年7月25日現在、PHACにはこれまでのところ、入院総数は1,271例であり、219例はICUに入院した。今週、8例の死亡が報告され、パンデミックが起こって以来死亡総数は57例となった。入院のピークを示す期間は、6月の最初の3週間であった。また、入院症例全数の約90%および死亡症例の85%は4州(QC, ON, MB, AB)から報告されている。感染した女性、年齢中央値および基礎疾患を呈する症例の割合は、病気の重症度に伴い増加している。カナダで最初であるオセルタミビル耐性症例は7月21日にQuebecで報告された。
										新型インフル エンザ (H1N1)	WHO/EPR update6 2009年4 月30日	2009年4月30日現在、11の国がインフルエンザA(H1N1)に感染した257の症例を公式に報告した。
										インフルエン ザ	OIE 2009 July 31	90586に同じ
										インフルエン ザ	ProMED-mail 20090801.2698	2009年7月31日、オーストラリアのNew south Wales(NSW)にある養豚場でブタインフルエンザのアウトブレイクを確認した。オーストラリアでブタにこのウイルスが確認された初めての例であり、政府当局は、恐らく、養豚場の労働者から動物に伝播したと考えている。総計280頭のブタは検査下におかれ、厳重なバイオセキュリティの措置を取ってウイルスを封じる努力をしている。